



大原美術館後援会会報

丸窓

[第34号] 令和8年2月

《掲載情報》

- ・大原美術館後援会会長松井えり菜より退任のご挨拶
- ・中之島香雪美術館にて開催の特別展についてなど

発行:大原美術館後援会事務局

△ 退任のご挨拶

大原美術館後援会会長松井えり菜より退任のご挨拶



後援会イベント時の様子

このたび、私、松井えり菜は、任期満了により大原美術館後援会会長を辞することになりました。

在任中は、後援会会員の皆さまをはじめ、美術館関係者の方々、地域の皆さま、そして大原美術館を愛してくださる多くの方々より、温かいご理解と多大なるご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

大原美術館は、日本で最初の西洋美術中心の美術館として誕生し、倉敷の地において、時代や世代を超えて美術の力を伝え続けてまいりました。その歩みは決して平坦なものではなく、社会状況の変化や文化を取り巻く環境の変動の中で、常に「美術館とは何か」「地域にとって文化とは何か」を問い合わせてきた歴史もあります。私は、そのような大原美術館の理念と精神に深く共感し、作家にも関わらず後援会会長という大役をお引き受けいたしました。

在任中、至らぬ点も多々あったかと存じますが、後援会の皆さんと力を合わせ、美術館の活動を支える一助となれたことは、私にとって大きな喜びであり、かけがえのない経験となりました。特に、コロナ禍の収束後大原美術館が単なる展示の場にとどまらず、人と人、過去と未来、そして地域と世界をつなぐ「開かれた文化の場」として機能し続ける姿を間近で見ることができたことは、深い感動と学びを与えてくれました。



三浦館長の自画像披露時の様子

今後は、一作家として、また一人の鑑賞者として、大原美術館の歩みを見守り、微力ながら応援を続けてまいりたいと考えております。次代を担う新たな体制のもと、大原美術館後援会がさらに発展し、美術館とともに豊かな文化を未来へと継承していくことを心より願っております。



後援会の入会記念グッズのパックの図柄を作成していただきました。

今号表紙の作品として掲載しております。



末筆ながら、大原美術館のますますのご発展と、後援会会員の皆さまのご健勝を祈念いたしまして、辞任のご挨拶とさせていただきます。

3年間誠にありがとうございました。

松井 えり菜





中之島香雪美術館にて開催の特別展「大原美術館所蔵 名画への旅 — 虎次郎の夢」について

研究部 塚本貴之



展示風景(最初のファサード)

これまで何度か日本各地の美術館で大原美術館のコレクション展を開催させて頂きましたが、展示室内に大原美術館を模したファサードが登場するのは今回がはじめて！特別展「大原美術館所蔵名画への旅 — 虎次郎の夢」では、このファサードから名画への旅が始まります。

まず第一章は、「最初の渡欧」として児島虎次郎が留学の拠点としたベルギーに関わる作品群、つづく第二章～六章ではフランスを中心に、周辺国のイタリアやスペイン、スイスなど児島が実際に旅をした足跡を追うように各地にまつわる作家の作品が並びます。また、今回は大原美術館だけではなく、高梁市成羽美術館さんからも児島の絵画とエジプトの考古資料などを出品。全体としては当館の本館2室ほどのコンパクトな展示室ですが、その中をハの字を描くように見て周る動線作りで、展覧会タイトル通り、まるで世界を旅しながら鑑賞しているかのような体験となります。さらに、展示室を抜けた最後の部屋には茶室「玄庵」のなかで静かに佇むジャコメッティ《ヴェニスの女I》。茶室とスイスを代表する芸術家のコラボは、大原美術館ではまず見ることの出来ない展示です。ぜひ実際に中之島香雪美術館を訪れていつもとは違う作品の表情をご覧ください。

開催期間:2026年1月3日(土)～3月29日(日)

館内展示風景



設備・警備チームより



設備改修工事に伴う全館休館について(全館休館2026年2月9日(月)～4月24日(金))

設備・警備チーム長 大橋倫也



分館前の工事の様子



分館地下の工事の様子

今年度も、美術館の各所で改修工事を行っています。現在進めているのは、長期休館中の分館における電気・空調設備などのリニューアルです。大原美術館の中では最も水害への対策が必要な分館。近年の異常気象による洪水対策として、1987年の地下展示室竣工から働いてきた電気設備は交換に合わせ、地下から地上へと引っ越しを行いました。今はまだ設備がむき出しの状態ですが、これから景観に馴染むよう囲いを作っていく予定です。

2月からは、本館もしばらくお休みをいただき、電気・空調設備の更新やLED化を行います。アトリウムの空調機は1991年から動き続け、ここ数年は金具が壊れて閉まらなくなったりカバーをガムテープで固定したり、以前より多い排水に悩ませたりと、「あと少し、交換まで頑張って」と祈るような日々でした。同期の電気設備とともに、地下で黙々と働いてくれた隠れた功労者たちにも、ついに交代の時が来ます。あわせて、2027年末の蛍光灯生産終了に備え、新展示棟の照明もLEDへ。これで本館展示室の照明はすべてLEDに生まれ変わります。

バックヤードの工事が多いですが、お客様に気づいていただける変化もいくつかございます。休館が明け、新しくなった美術館で皆様をお迎えできる日を楽しみにしています。

展示作品について



松井えり菜
《サンライズえり菜》
油彩画:181.8×227.3×5.6cm 油彩、画布
張子額:236×282×16cm 木、紙、アクリル
2011年

画面いっぱいに出現し、鮮烈な迫力をもって見る者を圧倒する松井えり菜の自画像。2012年に大原美術館で開催されたAM倉敷(Artist Meets Kurashiki)に合わせて制作された本作には、大原美術館所蔵作品のモチーフが多数登場しています。どんなモチーフが描かれているか楽しみながら鑑賞したい作品です。張子の額にもぜひご注目ください。

後援会事務局より

「大原れいこ メモリアル 特別ギャラリーコンサート ジュピター・カルテット・ジャパン&今井信子」開催について

開催日:2026年4月19日(日)

《詳細サイト》→



お問合せ先:大原れいこ メモリアル特別ギャラリー
コンサート実行委員会(TEL:086-422-2299)

大原美術館後援会は、これまで美術館が担ってきた運営体制から、「支える・応援する」という会員の皆様主体の運営へと少しづつ移行していくかと検討しています。まずは関心をお持ちの会員様と後援会のこれからについて気軽に話し合う場を設けたいと考えております。ご興味をお持ちの方、ご質問のある方は、右記フォームよりご連絡ください。



《募集サイト》



「みんなのマイミュージアム基金」の情報は、
右記QRコードからご覧いただけます。



大原美術館後援会事務局 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15
TEL(086)422-0005 FAX(086)427-3677
<https://www.ohara.or.jp/>

